



## 一生に一度の記念日

私たちは 1967 年に下谷教会で結婚式を挙げました。今年は金婚式という一生に一度の記念日を迎えました。50 年間、見知らぬ者同士が、結ばれて、共に生きて来たことに、不思議な感慨を覚えます。

南と北にルーツを持つ私たちは東京で出会いましたが、慣れ親しんだ環境や生活習慣が異なり、性格も一致するどころか、自己主張する個性を持ち、些細なことにも違いがあり、戸惑うこともありました。結婚という全く新しい環境自体、驚きの連続であり、不思議な出来事でした。二人の希望、それぞれの夢がありました。それにむかって、無我夢中で、また、何度か倒れながらも起き上がって、忍耐しつつ歩んできました。違いを受け入れ、愛することを学んできた 50 年でした。神様の導きと守りがあったこと、また、多くの教会の皆様、友人、家族の支えなしにはありえなかった長い道のりでした。ただ一人与えられた息子も幸せな家庭を築き、孫たちも成長しました。今、この記念日を迎えて、感謝と喜びの気持ちでいっぱいです。

息子家族は、忙しい日常の中で私たちの記念日のために、港の近くの Alte Liebe というレストランで宴を用意してくれました。”Ich liebe dich.”くらいしか記憶がないドイツ語ですが、店名から、初恋や、昔と変わらぬ愛などに思いを寄せながら、家族揃ってウィーン風のお食事となりました。メニューはフランス語です。赤ワインを頂きながら、次々と運ばれるソースや香草に彩られた珍しい料理に心が躍ります。素材そのものはほんの少量ですが、一枚の絵のように美しく盛り付けられて、一皿ごとに目と、舌を奪われます。また、このレストランはクラシックからタンゴまで、ヴァイオリンとピアノ演奏を聞かせてくれます。お馴染みの名曲を堪能しました。体もリズムを取って踊りたくなるようでした。皇妃エリザベートに思いを寄せたドボストルテのデザートの後、ヴァイオリニストが結婚行進曲を奏でながら、目の前に輝くキャンドルがついたショートケーキが登場。こんな日が来るとは夢にも思っていませんでした。なんて、ロマンチックな宵の宴でしょう！



ケーキを前に、記念に写真を撮っていただきました。お嫁ちゃんは赤いハート形のアンズリウムの花のブーケと鴛のつがいの箸置きを贈ってくれました。

幸せ過ぎて、とても申し訳ない気持ちになりました。一生に一度の記念日だから、こんな素敵なことも赦していただきましょう。

